

第52回日本PTA東北ブロック研究大会  
第58回福島県PTA研究大会

# 会津若松大会報告



## 大会主題

『【希望と創造】集おう！義をつなぐ会津の地へ』  
～令和を拓く子どもたちのために～



主催

東北ブロックPTA協議会  
福島県PTA連合会

主管

会津若松市父母と教師の会連合会

後援

公益社団法人日本PTA全国協議会

分科会

令和2年9月5日(土)

全体会

9月6日(日)

# ごあいさつ

第52回日本PTA東北ブロック研究大会  
会津若松大会実行委員長 堀金 寿臣



集おう！ 義をつなぐ会津の地へ

第52回日本PTA東北ブロック研究大会会津若松大会は、令和2年9月5日（土）、6日（日）の2日間、義をつなぐ会津の地において開催の予定でした。新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となりました。

会津若松市で東北ブロック研究大会を開催するのは初めての取り組みでしたので、2年前から実行委員会を立ち上げ、会津のおもてなしの精神で大会を成功させようと準備活動に邁進してまいりました。

そんな中、令和元年9月に山形県南陽市で開催された第2回東北ブロックPTA協議会の会議において、2002年～2003年のSARSや2009年～2010年の新型インフルエンザ、2012年～2013年のMARS等の過去の歴史から、万が一、大会が開催できない状況が発生しないとも限らない、そうしたことも頭の隅に置いて準備を進めていかなければならない、また、その様な配慮をしておくことで、確実に開催できるようになることを強く願うものです、といった趣旨のあいさつをしたことを思い出します。その時には、まさか半年後に会津若松大会の開催中止という苦渋の判断となるとは夢にも思っておりませんでした。

コロナ禍により、会津の特色を生かした研究大会にしよう、時代のニーズに応えられるスリムな大会運営のあり方を提案しよう、そして何よりも会津のおもてなしの心で、参加者の方々の絆を深めることができる研修会にしようという思いを実現できなかったことは誠に残念でした。

しかしながら、大会の準備をとおして学んだこともたくさんあります。それらの成果を地元の子どものための将来のために、今後のPTA活動にも生かしていきたいと思えます。

結びになりますが、東北ブロック研究大会の開催にあたり全般にわたってご指導ご支援をいただきました公益社団法人日本PTA全国協議会の皆様、東北ブロックPTA協議会の皆様、そして多くの関係の皆様にご心から御礼を申し上げます。

次年度の盛岡大会の成功と東北ブロックPTA協議会のご発展をご祈念申し上げまして御礼のごあいさつといたします。



# 会津若松大会

令和2年9月5日(土)・6日(日)

## 趣旨

変化が加速する時代の中で、子どもたち一人ひとりが地に足をつけ生きてもらいたいと願うのは、全ての保護者に共通の思いでしょう。その思いを形にする話し合いのキーワードとして、私たちは【希望】【創造】を考えました。【希望】・・・子どもたち一人ひとりが自分のよさを発揮し、希望や夢をもって生きていく基盤を創っていくPTA。【創造】・・・子どもたちが一人ひとりの希望や夢を実現し、自他の生命や人権を大切に、大きな花を咲かすことができるよう、新しい時代に即した取組を創っていくPTA。

大いに議論し学び合い、日々親としてがんばっている者どうし絆をしっかりとつなぐため、本大会を開催します。

## 大会主題

『【希望と創造】集おう！ 義をつなぐ会津の地へ』  
～令和を拓く子どもたちのために～

## 主催

東北ブロックPTA協議会、福島県PTA連合会

## 主管

会津若松市父母と教師の会連合会

## 会場

全体会：会津風雅堂 分科会：6会場

## 参加者

東北各県・仙台市PTA会員  
並びに関係者 1,800名

## 日程

			12:15	13:30	16:00
<b>5日(土)</b>			受付	分科会	
	9:00	9:20	9:40	11:10	12:40
<b>6日(日)</b>	受付	アトラクション	開会行事・表彰式・次期開催地挨拶	記念講演	閉会行事

## 分科会

	研究内容	討議の視点
第1分科会 組織運営	PTA活動を活性化するためには	○会員の活動意欲を高める工夫 ○活性化させるための組織の在り方
第2分科会 地域連携	PTA活動を中核とした地域連携活動のあり方 ～地域を愛する子どもを育成するために～	○家庭・学校・地域をつなぐPTAの役割とコミュニティ・スクール ○地域に根付く農業や伝統文化を愛する子どもを育成するPTAの実践
第3分科会 教育環境	子どもとともに成長するために (大人もかなえる「あいづっこ宣言」)	○家庭教育で大切にしたい子育てのよりどころについて
第4分科会 健康安全	ネット時代を生き抜くためには	○家庭におけるネットとの関わり方 ○AI時代におけるネットとの共存
第5分科会 家庭教育	家庭学習を通して 自己マネジメント力を育むためには	○自己マネジメント力(自分で学習や生活を改善する力)を育むための ・家庭の学習環境づくり ・家庭の習慣づくり
第6分科会 心の教育	子どもの豊かな心を育むために、 家庭と学校と地域でできること	○子どもの心の現状とその要因 ○家庭・学校・地域が子どもの心の教育のできること

## 記念講演

『多様性の時代に生きる』 柳澤秀夫氏

「SNSをはじめ様々なネット情報が氾濫し、ややもすると安易に『いいね』の一言で物事を判断してしまいかねない今の時代。こんな時代を私たちはどうやって生きぬけばいいのか？ 私がこれまでに関わった取材や番組を振り返りながら考え、お話ししてみようと思います。」

『会津会』第8代会長。会津若松市生まれ。元NHK解説委員、国際部の記者として内戦や戦争などを取材、『ニュースウオッチ9』初代キャスターや『あさイチ』キャスターなどを歴任して人気を博し、その後NHK放送総局解説委員長に就任。2018年10月よりフリーとなり、現在は民放『ワイド！スクランブル』でレギュラーコメンテーターとして活躍。



# 全体会次第

全体進行 小島 紀子（フリーアナウンサー）

◇ アトラクション 鶴ヶ城太鼓

## I 開会行事（9：40）

- (1) 開式のことば 大会副会長 佐藤 博之（山形県）
- (2) 国歌斉唱
- (3) 主催者あいさつ 東北ブロックPTA協議会会長 平塚 康晴（福島県）
- (4) 来賓祝辞 福島県知事 内堀 雅雄 様  
日本PTA全国協議会会長 清水 敬介 様
- (5) 歓迎のことば 会津若松市長 室井 照平 様
- (6) 来賓紹介と祝電披露 実行委員会副委員長
- (7) 感謝状・表彰状の贈呈
- (8) 受賞者代表お礼のことば 宮城県PTA連合会前会長 杉山 昌行 様
- (9) 大会宣言（案）発表 大会副会長 高城 みさ（仙台市）
- (10) 感謝状贈呈 日本PTA全国協議会会長から東北PTA連絡協議会会長へ  
東北ブロックPTA協議会会長から大会実行委員長へ
- (11) 次期開催地代表あいさつ 岩手県PTA連合会会長 田口 昭隆
- (12) PTAの歌斉唱
- (13) 閉式のことば 大会副会長 吉村 昌之（秋田県）

～ 休憩 ～

## II 記念講演（11：10）

演題 「多様性の時代に生きる」

講師 柳澤 秀夫 氏

放送ジャーナリスト  
元NHK放送総局解説委員長  
第8代会津会会長

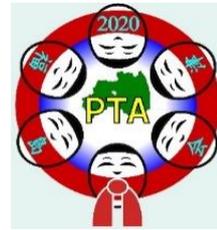


## III 閉会行事（12：40） ◇あいづっこ宣言を唱える中◇

実行委員会副委員長



令和2年度東北ブロックPTA協議会  
感謝状・表彰状受賞者名簿



■感謝状

杉山昌行	宮城県PTA連合会	前会長
志賀猛彦	仙台市PTA協議会	前会長
成澤勝蔵	福島県PTA連合会	前会長

◆表彰状

《岩手県》 団体 野田村立野田小学校PTA  
盛岡市立大慈寺小学校PTA  
雫石町立七ツ森小学校PTA  
西和賀町立沢内中学校PTA  
一関市立大東小学校PTA  
遠野市立遠野東中学校PTA

個人	玉 舘 誠	一般社団法人岩手県PTA連合会	前副会長
	藤 澤 暁 宏	一般社団法人岩手県PTA連合会	前副会長
	鎌 倉 公 順	一般社団法人岩手県PTA連合会	前副会長
	今 野 宏 昭	一般社団法人岩手県PTA連合会	前副会長
	三 田 雅 崇	一般社団法人岩手県PTA連合会	前理事
	山 口 正 桂	一般社団法人岩手県PTA連合会	前監事

《山形県》 団体 南陽市立赤湯小学校父母と教師の会  
鶴岡市立あさひ小学校PTA

個人	土 田 有 尚	山形県PTA連合会	前理事
	五十嵐 彰 宏	山形県PTA連合会	前理事
	國 井 輝 明	山形県PTA連合会	前理事
	鈴 木 秀 治	山形県PTA連合会	前理事
	川 野 泰 裕	山形県PTA連合会	前理事
	遠 藤 愛	山形県PTA連合会	前理事
	難 波 徹	山形県PTA連合会	前理事
	押 切 崇 寛	山形県PTA連合会	前理事
	菅 原 美 穂	山形県PTA連合会	前理事
	齋 藤 徹	山形県PTA連合会	前監事

《宮城県》 団体 名取市立増田西小学校父母教師会

個人	奥野昭典	石巻市立広瀬小学校PTA	顧問
	和田牧子	岩沼市立岩沼西中学校父母教師会	前会長
	建村勇樹	山元町立山下中学校父母教師会	顧問
	松本誠弘	大崎市立古川東中学校父母教師会	顧問
	阿部和義	大和町立大和中学校PTA	顧問
	荒井偉作	名取市立増田小学校父母教師会	会長
	森口能光	名取市立第二中学校父母教師会	会長
	小野寺孝	涌谷町立涌谷中学校PTA	会長
	千葉智浩	登米市立新田小学校PTA	元会長
	畠山卓	加美町立小野田中学校父母教師会	元会長
	志村洋一	宮城県PTA連合会	副会長

《青森県》 団体 三沢市立第三中学校父母と教師の会  
五所川原市立金木小学校父母と教師の会  
平内町立西平内中学校父母と教師の会  
藤崎町立藤崎小学校保護者と先生の会  
新郷村立西越小学校・野沢中学校父母と教師の会

個人	中田靖人	青森市PTA連合会	前副会長
	富岡朋尚	八戸市連合PTA	副会長
	成田浩基	黒石市立中郷中学校PTA	元会長
	池崎美幸	上北郡連合PTA	前会長
	工藤修	三戸郡連合PTA	前会長
	松田正志	青森県PTA連合会	元理事
	横田涉子	青森県PTA連合会	元監事

《仙台市》 団体 仙台市立岡田小学校父母教師会  
仙台市立福岡小学校父母教師会  
仙台市立高森小学校父母教師会  
仙台市立将監中央小学校PTA  
仙台市立大沢中学校父母教師会  
仙台市立田子中学校父母教師会

個人	星野太	仙台市立大和小学校PTA	前会長
	山口裕子	仙台市立沖野小学校父母教師会	会長
	伊藤宏明	仙台市立八木山南小学校PTA	会長

安 齋 敬 幸	仙台市立郡山小学校父母教師会	前会長
有 松 健 司	仙台市立南中山小学校PTA	元会長
阿 部 康 彦	仙台市立吉成中学校PTA	前校長

《秋田県》 団体

鹿角市立平元小学校PTA  
 能代市立向能代小学校PTA  
 秋田市立外旭川小学校PTA  
 秋田市立河辺中学校PTA  
 秋田市立下北手中学校PTA  
 にかほ市立平沢小学校PTA

個人	福 嶋 正 希	小坂町立小坂中学校PTA	会長
	畠 山 佳 洋	大館・北秋田PTA連合会	前会長
	加 藤 大 地	潟上市立出戸小学校PTA	会長
	高 橋 幸 栄	美郷町PTA連合会	前会長
	宮 本 敦	横手市PTA連合会	前会長
	藤 田 健 志	湯沢雄勝PTA連合会	前会長

《福島県》 団体

福島市立飯野中学校父母と教師の会  
 伊達市立伊達小学校PTA  
 伊達市立石田小学校PTA  
 伊達市立保原小学校父母と教師の会  
 二本松市立二本松第二中学校PTA  
 本宮市立本宮小学校父母と教師の会  
 郡山市立薫小学校父母と教師の会  
 須賀川市立第二中学校父母と教師の会  
 田村市立常葉小学校父母と教師の会  
 南会津町立伊南小学校父母と教師の会

個人	佐々木 義 通	福島県PTA連合会	前副会長
	渡 邊 みゆき	福島県PTA連合会	前母親代表理事
	大 泉 きよみ	福島県PTA連合会	前母親代表理事
	重 巢 吉 美	福島県PTA連合会	前事務局長理事
	佐 原 聡	福島県PTA連合会	前事務局長理事
	芦 野 孝 彦	福島県PTA連合会	前研修部長
	角 井 勇 三	福島県PTA連合会	前会計部長

# 第1分科会

## 会津風雅堂



領域	組織運営
研究内容	P T A活動を活性化するためには
現状 と 課題	<p>子ども達の減少と、保護者の価値観の多様化により、PTA活動を従来の形で実施することが難しくなっています。P T A役員選考の際に、人選に苦勞するという現状もその一例です。</p> <p>このような状況を踏まえ、会員の活動意欲を高めるため魅力あるPTA活動にする工夫、役員の負担軽減を考えた上でPTA活動を活性化させる組織づくり、という課題に取り組む必要があると考えます。</p>
視点	会員の活動意欲を高める工夫 活性化させるための組織の在り方
形式	基調講演＋パネルディスカッション
基調講演	◇菅田 憲孝 氏 福島県P T A連合会 前会長
コーディネータ	◇大橋 淳子 氏 会津若松市生涯学習課 社会教育指導員
パネリスト	◇ 棚内 伸治 氏 青森県PTA連合会理事 (藤崎町立藤崎中学校P T A副会長) ◇ 鈴木 憲 氏 山形県大江町立本郷東小学校P T A会長 ◇ 秋月 淳子 氏 会津若松市教育委員会 教育委員
運営責任者	青森県P T A連合会会長 外崎 浩司

## 第2分科会

### 福島県立博物館



領域	地域連携
研究内容	PTA活動を中核とした地域連携活動のあり方 ～地域を愛する子どもを育成するために～
現状 と 課題	PTA活動と学校の教育活動の連携をめざし、地域の文化の継承や農業体験などを通して、地域の人々の協力を得て取り組んでいます。 今後の課題として、地域社会との連携及び協働を持続可能なものにするために、学校運営協議会（コミュニティスクール）などの活用とPTA活動のあり方を考えます。
視点	家庭・学校・地域をつなぐPTAの役割とコミュニティスクール 地域に根付く農業や伝統文化を愛する子どもを育成するPTAの実践
形式	基調講演＋パネルディスカッション
基調講演	○ 四柳 千夏子 氏（社）みたかSCサポートネット ○ 未定 福島県立博物館学芸員
コーディネータ	○ 宗像 英人 氏 荒舘小学校父母と教師の会会長
パネリスト	◇ 杉山 昌行 氏 宮城県PTA連合会 前会長 ◇ 鶴水 和利 氏 会津若松市立北会津中学校PTA会長 ◇ 前田 竜良 氏 会津若松市立川南小学校父母と教師の会会長
運営責任者	宮城県PTA連合会会長 鈴木 信一

# 第3分科会

## 会津稽古堂



領域	教育環境
研究内容	子どもとともに成長するために ～大人もかなえる「あいづっこ宣言」～
現状 と 課題	家族の在り方が多様化し、地域の中でのつながりが希薄化する中、家庭でのしつけや、地域住民との関わりの中で社会性や規範意識を育む機能が、うまく働かなくなってきました。 子どもの成長にとって教育環境がとても重要な役割を担うことを踏まえ、会津若松市が制定している「あいづっこ宣言」を例に、子どもたちの規範意識や道徳性を高める環境づくりについて考えていきます。
視点	家庭教育で大切にしたい子育てのよりどころ
形式	基調講演＋パネルディスカッション
基調講演	○ 宗像 精 氏 会津藩校日新館 館長 ○ 坂内 広文 氏 会津若松市あいづっこ育成推進室長
コーディネーター	○ 鈴木 基之 氏 福島県教育庁社会教育課長
パネリスト	◇ 岩泉 睦夫 氏 盛岡市PTA連合会副会長 盛岡市立大宮中学校PTA会長 ◇ 下平 利常 氏 会津若松市立日新小学校PTA会長
運営責任者	岩手県PTA連合会会長 田口 昭隆

# 第4分科会

## アピオスペース



領域	健康安全
研究内容	ネット時代を生き抜くためには
現状と課題	<p>2030年頃到来するといわれる「Society 5.0」。それは、人工知能（AI）等をはじめ技術革新が極めて大きく進展した高度な社会だといわれています。そのような社会において、人間が中心となり、健康・安全に、そして快適に生活するために、避けて通ることのできないのがネットとの共存です。</p> <p>子どもたちが、ネットに潜む危険性の理解を深めるとともに、望ましい意思決定や行動選択ができるようにしていくための方策を考えます。</p>
視点	家庭におけるネットとの関わり方 AI時代におけるネットとの共存
形式	基調講演＋パネルディスカッション
基調講演	○ 目黒 朋子 氏 一般社団法人教育のための研究所上席研究員
コーディネーター	○ 長澤 かよ 氏 (株) わーくすたいる 代表取締役社長
パネリスト	◇ 伊藤 宏明 氏 仙台市PTA協議会副会長 仙台市立八木山南小学校PTA会長 ◇ 福島県大学生2名 ・ 中川 夏帆さん 東農大2年 ・ 他1名未定
運営責任者	仙台市PTA協議会会長 高城 みさ

# 第5分科会

## 会津若松市文化センター



領域	家庭教育
研究内容	家庭学習を通して自己マネジメント力を育むためには
現状と課題	<p>子どもたちは、電子メディアの誘惑が多い環境の中で生活しています。家庭学習は、そのような環境でも、誰かに頼ることなく、自ら生活の中に位置づけて進めることが望まれます。</p> <p>自己マネジメント力は、子どもが自身の実態を自覚し、目標を設定したり進捗を記録したりして、自身の生活や学び方を改善する力です。子どもたちの将来に必要なこの力を育むための、家庭の役割について考えます。</p>
視点	<p>自己マネジメント力（自分で学習や生活を改善する力）を育むための</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の学習環境づくり</li> <li>・家庭の習慣づくり</li> </ul>
形式	基調講演＋パネルディスカッション
基調講演	○ 田中 博之 氏 早稲田大学教職大学院教授
コーディネータ	○ 小椋 裕 氏 会津若松市立第一中学校長
パネリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 備前 博和 氏 秋田県東成瀬村立東成瀬中学校PTA会長</li> <li>◇ 安藤 暢昭 氏 会津若松市立行仁小学校P会長</li> <li>◇ 未定 // 城北小PTA会員</li> <li>◇ 未定 // 若一中PTA会員</li> </ul>
運営責任者	秋田県PTA連合会会長 吉村 昌之

# 第6分科会

## ルネッサンス中の島



領域	心の教育
研究内容	子どもの豊かな心を育むために、家庭と学校と地域でできること
現状と課題	<p>現代は多様な価値観が重視される一方で、異なる価値観と折り合いをつける力も求められます。様々な家庭環境にある子ども、物心ついた時からネット環境に囲まれている子ども、そんな子どもたちの、社会性や思いやりの気持ち、責任感や自己肯定感を高めるために何ができるでしょうか。</p> <p>子どもたちの豊かな心を育むために、家庭・地域・社会が一体となって推進する取り組みについて考えます。</p>
視点	子どもの心の現状とその要因 家庭・学校・地域が子どもの心の教育でできること
形式	基調講演＋グループ討議
基調講演	○ 岩沢 高広 氏 会津藩校日新館職員
コーディネータ	○ 菅 家 篤 氏 福島県教育庁会津教育事務所総務社会教育課主任社会教育主事
バネリスト	グループ協議形式 ※ グループごとに行役を選出 グループ討議の運営の概略を提示して行う
運営責任者	山形県PTA連合会会長 佐藤 博之

# あいづっこ宣言

一人をいたわります

二ありがとう

ごめんなさいを言います

三がまんをします

四卑怯ひきょうなふるまいをしません

五会津を誇りほこ年上を敬うやまいます

六夢に向かってがんばります

やっではならぬ

やらねばならぬ

ならぬことは

ならぬものです

会津若松市「あいづっこ宣言」ホームページから引用

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2007080601668/>

世代を超えて子どもたちに伝えたい あいづっこのやさしいころ

## 青少年の心を育てる市民行動プラン

### 「あいづっこ宣言」

青少年の心を育てる市民行動プラン「あいづっこ宣言」は、平成14年2月、市民一人ひとりが「次代を担う青少年（会津人）の育成」を自らの課題として、それぞれの立場から行動を起こしていく上での市民共通の行動指針として策定されました。

### 「あいづっこ宣言」に込められた思い

「あいづっこ宣言」は子どもの立場からは、「このような子ども・会津人になります」という宣言ですが、同時にまた、大人の立場からは「このような子ども・会津人を育てます」という宣言でもあります。

みなさんも、「あいづっこ宣言」に身近なところから取り組んでみませんか。

## 青少年の心を育てる市民行動プラン

# あいづっこ宣言



### 身近なところから

「おはよう」、「おかえりなさい」とあいさつを交わしましょう

### 家庭では

家族団らんの場で、宣言について話し合いながら、家族の絆を深め、心豊かな子どもを育てましょう

### 地域では

地域の歴史・文化にふれあい、ふるさとを慈しましましょう

### 学校・園では

子どもたちに親しみやすいようわかりやすく取り入れています



# 一

人ひとをいたわります



自分じぶんにだけでなく、家族かぞく・友達ともだち・地域ちいきの人ひとに常つねに親切しんせつな心こころを持ち、みんなみんなで協力きょうりょくすることにより良い社会しゃかいを作り上げよう。善い行いよ おこなをしていたらほめることを忘れずわすに、お互いたがに感謝かんしゃの気持ちきもちを持ちながら生活せいかつすることが大切たいせつです。

# 二

ありがとう  
ごめんなさいを  
言いいます



挨拶あいさつの大切たいせつさを忘れずわすに、自らみづかすすんで「おはよう」「こんにちは」を言いえるようにすべの人ひとが意識いしきしよう。もしも、悪い行いわる おこなをしてしまった場合ばあいや、相手あいてを傷きずつけてしまったときは、「ごめんなさい」を素直すなおに言いえるように日ごろから勇気ゆうきを育てそだてていくことが大切たいせつです。

### 三

がまんをします



自分の決めたことを最後までやり通す強い心を持つためにも、自分の甘えと向き合ってみることが大切です。物事を成し遂げることや、結果をだすことは簡単なことではありませんが、失敗や困難などの体験が自分をさらに上へと導いてくれます。

### 四

卑怯なふるまいを  
しません



常に相手の立場になって考えることで、「自分さえよければ」という考えにならないように努力してみよう。嘘や弱いものをいじめる行為は、相手だけでなく自分の未来も傷つけてしまうことがあります。周りの人に恥じない行動をすることで、自分への誇りや自信へとつながっていきます。

# 五

## 会津を誇り 年上を 敬います



会津の歴史や文化を学び、よく知ること、多くの会津にしかない良さや誇りがみつかるとは、多  
です。それらを大切にすることで、私たちの  
会津は今よりもさらにより良い場所へと変わっ  
ていくことができます。また、自分の身近にい  
るすべての人々に、常に尊敬の気持ちを持つこ  
とで、自分の成長にもつながっていきます。

# 六

## 夢に向かって がんばります



自分の夢とは自分をさらに成長させるための  
大切な目標です。自分の夢に誇りを持ち、くじ  
けずに努力していくことは、自分自身を磨いて  
いくことにつながります。また、周りの人も夢  
を持って頑張っています。積極的に手助けをし、  
お互いに協力していくことで、より良い社会を  
作りあげていくことができます。

やってはならぬ

やらねばならぬ

ならぬことは

ならぬものです

学校がっこうや社会生活しゃかいせいかつにはすべての人が守まもらなければならぬルールがあります。やってはいけないこと・やらなければいけないことの区別くべつを持ち、自分勝手じぶんかってはやめ、社会生活しゃかいせいかつのルールを守る強い心こころを持つて、常つねに自分自身じぶんじしんで考えかんがて行動こうどうしましょう。

## 第52回日本PTA東北ブロック研究大会会津若松大会

### <大会宣言>

平成23年3月11日の東日本大震災、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故は、私たちに大きな悲しみをもたらしました。一方で、全国から世界から多くの温かい支援をいただき、絆のありがたさ、大切さを実感させてくれました。また、復興五輪としての東京オリンピック・パラリンピックは改めて東北の地に眼を向けてもらう機会になりました。道半ばとはいえ、東北は復興への道を皆で助け合って歩んでいます。

このような時に、私たちは、『【希望と創造】集おう！ 義をつなぐ 会津の地へ～令和を拓く子どもたちのために～』のスローガンのもと、会津若松の地に東北のPTA会員が集い、第52回日本PTA東北ブロック研究大会 会津若松大会を開催しました。

現代の子どもたちを取り巻く環境は、多様化が進む時代の中で、自己実現の可能性を広げる一方、以前は無かった困難に対応するための様々な力も求めています。家庭・学校・地域社会は、子どもたちの命や人権や将来につながる学びを守るために、何ができるかを考え行動にうつしていく責任があります。

この研究大会では、【希望】【創造】をキーワードに人間の行動規範となるべき「義」を想い、令和という新しい時代をたくましく切り拓いていく子どもたちを見守り、輝く未来に向かう子どもたちの健やかな成長を支えるため、私たちができること、やるべきことを共に学ぶことができました。

今こそ東北のPTA会員一人ひとりが、絆をつなげ、深めていくことで、家庭・学校・地域社会の連携も強くなっていくと考えます。私たちは、ともに手を携え、子どもたちの健全な育成を推進していくことをここに宣言し、次の通り決議します。

### < 決議 >

- 一、 子どもたちが一人ひとりの希望や夢を実現できる PTA 活動を推進します。
- 一、 心身ともに健康で豊かな心を育む P T A活動を推進します。
- 一、 子どもたちの大切な命や人権を守る P T A活動を推進します。

令和2年9月6日 第52回日本PTA東北ブロック研究大会 会津若松大会

# 記念講演

『多様性の時代に生きる』

柳澤秀夫氏



「SNSをはじめ様々なネット情報が氾濫し、ややもすると安易に『いいね』の一言で物事を判断してしまいかねない今の時代。こんな時代を私たちはどうやって生きぬけばいいのか？ 私がこれまでに関わった取材や番組を振り返りながら考え、お話してみようと思います。」

『会津会』第8代会長。会津若松市生まれ。元NHK解説委員、国際部の記者として内戦や戦争などを取材、『ニュースウォッチ9』初代キャスターや『あさいち』キャスターなどを歴任して人気を博し、その後NHK放送総局解説委員長に就任。2018年10月よりフリーとなり、現在は民放『ワイド！スクランブル』でレギュラーコメンテーターとして活躍。

## 「PTAの歌」作詞者 春日 紅路氏(宮城県出身)



春日 紅路【かすが こうじ】

### 明るい家庭を！『PTAの歌』作詞にあたって

●春日氏は、「PTAの歌」の作詞にあたって、当時の会報誌に、次のように綴っています。

素直な子供、心も身体も健康な子供、辛抱強くそして常に何かを考えている子供。ぼくは新しい日本の子供の姿をそのように夢見ている。そしてまた、学校と結びつく理想的な家庭をぼくは次のようにも考えている。

節度のある教養と愛情で常に家庭を明るくしている父であり、母でなければならぬ。子供たちと一緒に考える親達、そうした家庭の子供達はきっと素直で健康で、明朗であるに違いない。しかしながら、現実には年から年中けんかばかりしている家庭があるということはなんとしても淋しいことだ。そうした暗いじめじめした家庭の中に成長する子供のことを考えると恐ろしいような感じがしてならない。

教育は学校だけがするもの、とか或いは受け持ちの先生が全責任を持つべきものであるとかと、いったような誤ったあなた任せの古い考えは捨てよう。そして、可愛い子供のためならばどんなに苦勞しても自己の責任に於て立派な人間に育て上げようとする意欲と堅い決心を持とう。

家庭が暗かったら、決して立派な子供は成長しないのだ。

ひとりひとりが高い知性と深い愛情を持たない限り、いくら学校の制度を変えてみたり、PTAの組織をいぢくりまわしてみたりとところでどうにもならないのだ。

人間性豊かな教師と理解ある親達、これらが堅く美しく直結するときはじめて希望も花咲き、新しい日本の教育も確立するのではないだろうか、人間教育というものに深い関心と、不思議なほどの強い郷愁を感じているぼくは、そうしたことを考え、夢みながらこの歌をつくった。

(登米小学校会報・昭和26年12月31日発行より)

### ●春日 紅路【かすが こうじ】

大正12年9月28日 宮城県牡鹿郡萩浜村(現 石巻市)にて生まれる。

(実家は登米町でしたが、登記関係の仕事をする父の為、移転が多かった。)

昭和18年3	岩手県立旧制関城中学校卒業(現・一関商高に統合)
26年6月	登米町公民館に主事として奉職 全国PTAの歌を作詞 NHK募集「東北うたのほん」に10編入選
27年4月	登米町公民館館長(昭和49年より4年間 企画課長) 「PTAの歌」レコード発行
34年	毎日新聞社主催俳句大会入賞
35年	毎日俳壇賞受賞
45年	全国芭蕉祭献詠俳句特選
56年9月	登米町公民館館長として退職 社団法人俳人協会会員 宮城県芸術協会会員 宮城県俳句クラブ幹事 登米郡俳句協会会長 俳誌「夏草」「みちのく」同人 登米俳句会長18代一宿庵(昭和57年11月迄19年間) <sup>*1</sup>
57年3月	登米町議会議員
同年11月22日	永眠、享年60歳

\*1：元禄2年芭蕉翁登米に寄り、蓮沼家に一宿せりと伝え有り。翁の一宿を記念する為に生まれたる庵号である。

## 「PTAの歌」作曲者 古関 裕而氏(福島県出身)



古関裕而(本名、古関勇治)は、明治42(1909)年福島市大町に生まれ、昭和5(1930)年9月に日本コロムビア(株)に作曲家として入社、以来、作曲活動を継続し、戦前においては「露営の歌」(昭和12:1937)、「暁に祈る」(昭和15:1940)等の歴史的的作品を残したほか、戦後の荒廃した社会の中にあつては「とんがり帽子」「長崎の鐘」等未来へ希望を抱かせる明るい歌謡作品を発表し多くの人に愛唱されています。

さらに、菊田一夫氏とのコンビで昭和22(1947)年以降は放送作品に力をそそぎ、NHKラジオ・ドラマ「鐘の鳴る丘」「さくらんぼ大将」「君の名は」等の主題歌を発表し一世を風靡したことはあまりにも有名です。こうした数々の放送関係における業績により同28(1953)年NHK放送文化賞を受賞しました。また、昭和39(1964)年アジアで初めて開催されました東京オリンピックの選手入場行進曲「オリンピック・マーチ」を作曲しました。

作曲作品総数は、5,000曲にもおよび、スポーツ・ラジオドラマ・歌謡曲・演劇・校歌・社歌等、多岐にわたっています。こうした一連の功績によって昭和44(1969)年には紫綬褒章を受章しています。

また、昭和54(1979)年4月には福島市名誉市民第一号となり、その功績と榮譽をたたえられています。

(資料提供： 福島市・福島市観光コンベンション協会)

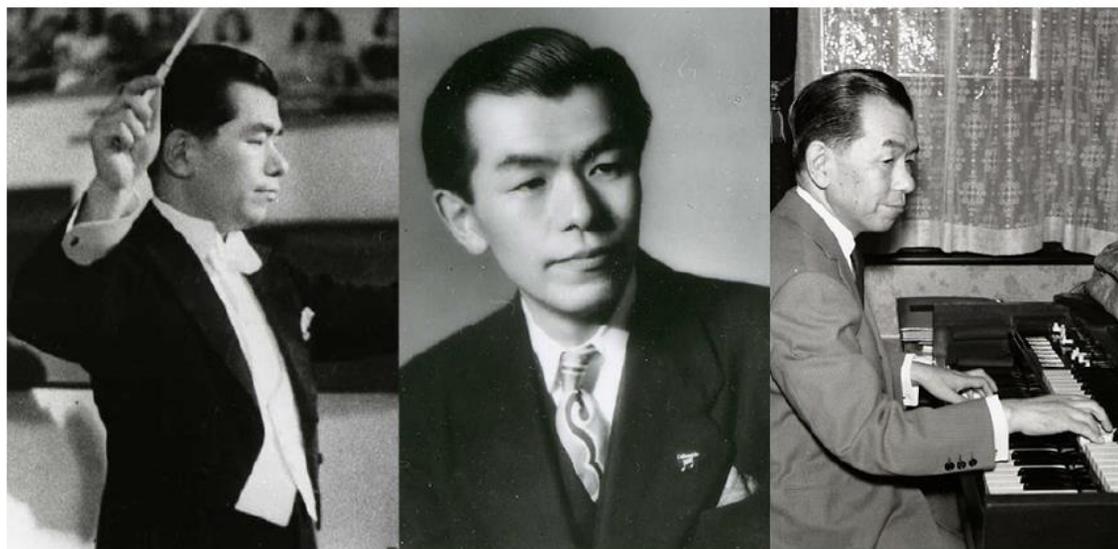
# 古関裕而 のまち 福島市



## 古関裕而とは



### ：プロフィール・業績



### 日本歌謡詩に残る不滅のメロディ

古関裕而(本名、古関勇治)は、明治42(1909)年福島市大町に生まれ、昭和5(1930)年9月に日本コロムビア(株)に作曲家として入社、以来、作曲活動を継続し、戦前においては「露営の歌」(昭和12：1937)、「暁に祈る」(昭和15：1940)等の歴史的作品を残したほか、戦後の荒廃した社会の中にあっては「とんがり帽子」「長崎の鐘」等未来へ希望を抱かせる明るい歌謡作品を発表し多く人に愛唱されています。

さらに、菊田一夫氏とのコンビで昭和22(1947)年以降は放送作品に力をそそぎ、NHKラジオ・ドラマ「鐘の鳴る丘」「さくらんぼ大将」「君の名は」等の主題歌を発表し一世を風靡したことはあまりにも有名です。こうした数々の放送関係における業績により同28(1953)年NHK放送文化賞を受賞しました。また、昭和39(1964)年アジアで初めて開催されました東京オリンピックの選手入場行進曲「オリンピック・マーチ」を作曲しました。

作曲作品総数は、5,000曲にもおよび、スポーツ・ラジオドラマ・歌謡曲・演劇・校歌・社歌等、多岐にわたっています。こうした一連の功績によって昭和44(1969)年には紫綬褒章を受章しています。

また、昭和54(1979)年4月には福島市名誉市民第一号となり、その功績と栄誉をたたえられています。

## ■ 栄光のスポーツ音楽

古関裕而の音楽に一貫して流れる清潔感は、スポーツ音楽という独特の世界にも表現されています。

昭和6(1931)年、早稲田大学第六応援歌として作られた「紺鷲(こんべき)の空」は、現在では第一応援歌として校歌とともに親しまれています。

『誰も歌える健全な歌』をモットーに、庶民的でありながらも気品をそなえた古関メロディーは、やがてあらゆるジャンルのスポーツの祭典に欠かすことのできないものとなりました。高校野球、プロ野球、スキー、スポーツ番組テーマ曲など名曲の数々…。その集大成ともいえる作品が、昭和39(1964)年の東京オリンピックのために作曲された「オリンピック・マーチ」でした。

## ■ 放送・劇場・映画音楽

### 『私の音楽の最大の理解者、菊田一夫』

古関自身のこの言葉にあるように、昭和12(1937)年に初めて出会った二人は、その後、おしどり夫婦のようなコンビとして、戦中・戦後を通じて、放送・演劇史上に大きな足跡を残しました。NHK連続ラジオドラマ『鐘の鳴る丘』の主題歌である「とんがり帽子」、放送時間には、女湯がからになったことで有名な『君の名は』など、戦争という悲劇のあと、不安と希望の交叉する庶民生活に送り出された名曲の数々。それらは、人々の心に計り知れないうおいとなって溶け込んでいきました。

菊田一夫とのコンビによる活動は、「放浪記」などの舞台・劇場音楽へと発展し、菊田一夫が亡くなるまでの36年間続けられました。菊田の死は、『菊田さんが幕を降ろしたのなら、私もそうしようかと思った』というほど、古関にとって衝撃的なことでした。

## ■ 古関作曲の校歌

古関は、中央における音楽活動のほかに、福島県のみならず全国各学校の校歌や応援歌を作曲して、多くの感動を与えていた。県内では百一の校歌・応援歌を作曲している。

—小豆が作曲のお礼

校歌の作曲に関して古関の二女である高橋紀子は、次のようなエピソードを披露してくれました。

『四十年前のある日、北海道のある小学校の校長先生からの手紙が届きました。その手紙は、「古関裕而先生の歌が大好きなので、校歌を作曲してもらいたいが、小さな学校なので予算がなく、お礼らしいお礼が出来ない。それでも、もしかしたら作曲して下さるかもと、思い切って手紙をだしました」とのこと。この校長先生の手紙に父の心は動き、「お礼は結構です」と伝えて、校歌を作曲して送りました。校歌が出来て喜ばれた校長先生から、お礼の手紙と共に、学校の生徒たちからのお礼ですと、一斗缶入りの小豆が届きました。その小豆は、校歌のお礼にと一人一握りずつ、小豆を家から持ち寄った、心のごもったお礼でした。母はお汁粉やおはぎを作るのが得意なので、その小豆でせっせと作り、甘党な父はこれをよるこんで食べました。これが作曲のお礼と思うと、格別な味で、私にとっても嬉しいことでした』



## 作曲家の高みへ

昭和39年（1964年）10月10日、アジア初の東京オリンピックの開催が決まり、古関は長年の作曲活動を高く評価され、「オリンピック・マーチ」の作曲を依頼されることになりました。アジア初の東京大会であることから、勇壮ななかにも日本的な味を出そうと考え、曲の初めははつらつとし、終わりの部分でオリンピックの日本開催を象徴するために「君が代」の一節を取り入れました。

「私の長い作曲生活の中で、ライフ・ワークというべきもので、一世一代の作として精魂込めて作曲しました。華やかな舞台を盛り立てるにふさわしいものと自負しています。」と古関は語っています。この自信の通り、マーチ発表後のオリンピック組織委員会には世界各国から作曲者の問い合わせが殺到しました。

オリンピックという最高の舞台で古関の美しい旋律が開花し、ここに世界的な作曲家・古関裕而が誕生しました。



「オリンピックマーチ」楽譜



高原列車は行く

## 歌い継がれる不滅の古関メロディー

古関が誕生して100年以上が経った現在でも、古関メロディーは私たちに歌い継がれています。古関は故郷、福島の人を大切にしていました。妻金子に「何でも福島なのね」とやきもちを焼かれたという逸話も残っています。

生涯に5,000曲も作曲した古関ですが、福島市にゆかりのある曲として「阿武隈の歌」や「わらじ音頭」などがあります。「阿武隈の歌」は福島市を訪れた歌人若山牧水の歌に、古関が曲を付けたものです。悠々とそびえる阿武隈山地や、田畑が広がる福島盆地を彷彿とさせる曲は、福島を自然を知り尽くした古関にとっては当然のことでした。

また、福島市の夏の風物詩、長さ12m、重さ2tの大わらじを奉納する、福島わらじまつりの「わらじ音頭」も古関の手によるものです。「（わらじ音頭を）市民のみなさんで育ててください。」という古関の言葉の通り、アレンジされ福島の夏を彩る「わらじ祭り」を盛り上げています。

日本音楽史上、永きにわたり色褪せることなく燦さんぜん然と輝く古関メロディー。私たちはこれからも、古関裕而を誇りとし、歌い上げ、継承していきます。

# あれもこれも“古関メロディー”

生涯に5,000曲もの作曲をした古関裕而。作曲には楽器類は使わず、書齋で作曲したと言われています。

校歌、応援歌、映画音楽、オペラ、ミュージカル、民謡、クラシック、スポーツ音楽など、様々なジャンルの作曲をされました。そのなかで、「えっ？あの曲も？」という曲をピックアップしてみました。

## モスラの歌 作詞:由紀こうじ（昭和36年）

昭和36年に東宝により公開された映画「モスラ」で劇中に使われた曲です。

ザ・ピーナッツ扮する小美人がモスラを呼び出す歌として作曲され、日本の劇中音楽のなかでも、今なお多くの人々の耳に残っている曲の一つと言えるでしょう。作詞の「由紀こうじ」は、田中友幸、本多猪四郎、関沢新一の3人の共同ペンネームであり、当初、歌詞は日本語で書かれ、インドネシア語に翻訳されて使われました。

劇中に使われた多くの音楽（効果音楽）も古関が担当しましたが、古関メロディーの懐の深さをうかがい知ることができます。

## 別れのワルツ スコットランド民謡（昭和24年）

スコットランド民謡「Auld Lang Syne」（オールド・ラング・サイン。日本では「蛍の光」として有名）が、昭和24年公開のアメリカ映画「哀愁」で効果的にアレンジされました。そのアレンジを参考に、古関裕而が新しく手を加え（編曲）、コロムビアの洋楽盤「別れのワルツ“FarewellWaltz”」として発売されました。

そのレコードには、古関裕而の名前をもじった、編曲：ユージン・コスマン演奏：ユージン・コスマン管弦楽団と表記されていた上、レコード規格が洋楽規格でしたので、当時の人々は外国録音のレコードと信じて疑わなかったといえます。現在でもデパートやレストランなどの閉店時のBGMとして使われている「あの曲」です。

## 六甲おろし 作詞:佐藤惣之助（昭和11年）

正式名称「阪神タイガースの歌」ですが、一般的には「六甲おろし」として今もなお、阪神ファンに親しまれています。

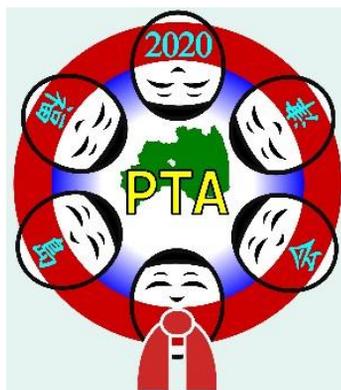
作曲当時は、「大阪タイガースの歌」でしたが、現存するプロ野球球団のなかでも、最も古い球団歌です。

作詞を担当した佐藤惣之助は、神奈川県川崎市出身であり、佐藤の生家跡地は現在、川崎信用金庫本店となっており、敷地内に「佐藤惣之助生誕の地碑」が建てられています。なお、川崎信用金庫の社歌は、古関裕而の作曲というのも、「偶然」という言葉では言い表せない「縁」を感じさせます。また、「巨人軍の歌」（闘魂込めて）も古関裕而作曲（昭和38年）であり、ライバル同士の球団歌を作曲しているのも古関の特筆すべき点でしょう。

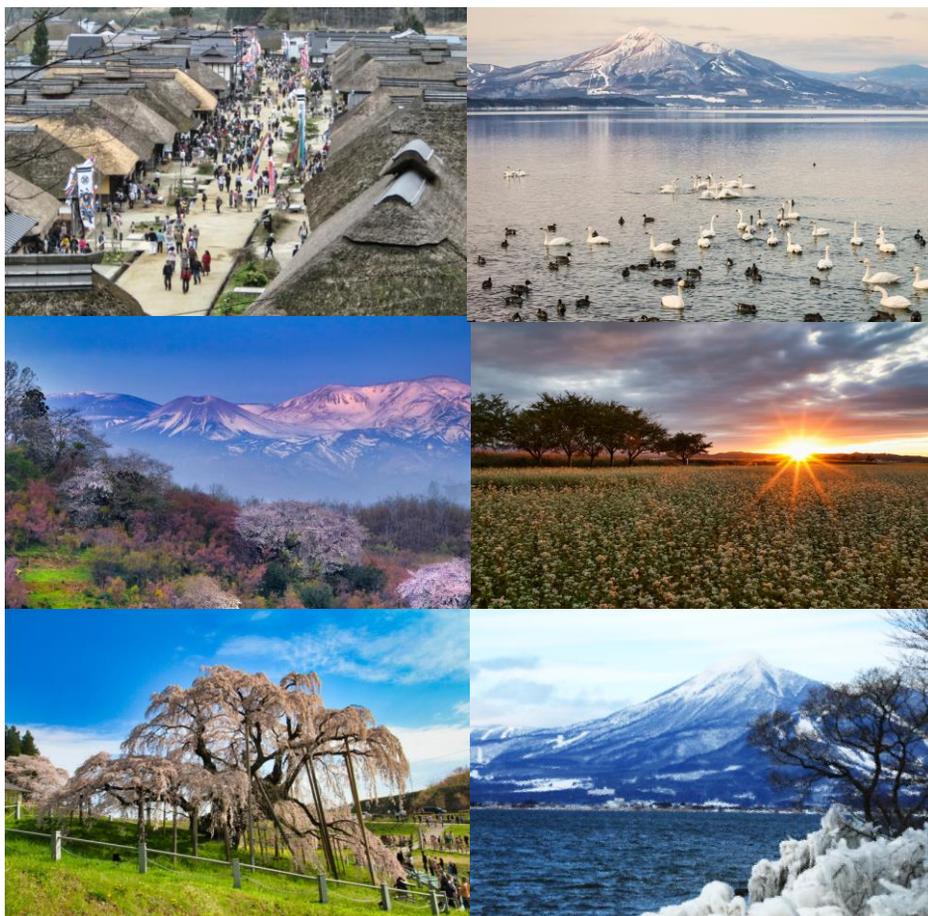


資料提供

福島市・福島市観光コンベンション協会  
電話番号：024-563-5554



『【希望と創造】集おう！義をつなぐ会津の地へ』  
～令和を拓く子どもたちのために～



福島県PTA連合会



東北ブロックPTA協議会



公益社団法人日本PTA全国協議会